



四日市看護医療大学

四日市看護医療大学同窓会報

Vol.3

平成27年10月20日 発行
四日市看護医療大学同窓会事務局

ごあいさつ

四日市看護医療大学同窓会会計 平成22年度卒業 小嶋 麻里

今回、四日市看護医療大学同窓会会報のごあいさつを担当させていただきます、1期生の小嶋です。先日開催された第一回目の同窓会、四日市看護医療大学同窓会開設記念パーティーにたくさんの先生方、卒業生にお集まり頂きありがとうございます。日頃の仕事の意見交換の場となったと同時に、懐かしい顔ぶれに学生時代の思い出に花が咲いたことかと思えます。

わたしたち一期生は卒業して5年が経ち、看護職として病院、地域、さまざまな看護の現場で活躍しております。社会人として鍛えられた1年目、現場になれてきた2年目、3、4年目ではプリセプターとして新人とともに成長し、教育される立場から教育していく立場になってきました。一人でも多くの後輩が看護の良さ、患者さんと向き合う大切さに気付いて成長してほしいと願い、指導し、自分たちも現場の中で患者さんから学び、後輩指導をしながら成長させてもらっています。

看護職は人の生と死を目の前にしながら働く特殊な仕事だと思います。人の終末というつらく、悲しいことに直面し、患者家族と同じように胸を締め付けられるような思いをすることもあります。しかし、その反面で病気でありながらも懸命に生きる患者さんや何度も危機的状況にあった患者さんが回復・退院していく姿をみて、自分たちの看護が患者さんの人生を支えているのだと感じ、他の仕事ではなかなか経験できないやりがいのある仕事だとも思います。自分たちひとりひとりの看護がどこかで人の人生を支えていると思い、誇りをもって働いていきたいと思っています。

さて、同窓会役員は引き続き暁学園同窓会への参加、同窓会の企画・実行をしていきます。次回同窓会は5年後の平成32年を予定しています。役員が中心となって企画していきますが、なにかご意見・ご要望などございましたら各学年の同窓会役員を通してご連絡をください。卒業生が何年たっても顔を合わせられる場、お世話になった先生方にお会いできる場をつくりつづけるためにもご協力をお願いします。

各現場で卒業生の皆さんが活躍し続けることを願い、5年後にまた同窓会でお会いできることを楽しみにしています。



卒業生の皆様、お元気で、 いきいきと楽しい 毎日を送っていますか

山本美佐子 教授



今年は、2007年4月に第1期生の入学生を迎え、本大学での看護教育がスタートしてから9年目に入りました。私も、開学当初から本学の教育に携わり、皆様とともに四日市看護医療大学の歴史を刻む一翼を担うことができました。

卒業生の皆様は、お元気でいきいきと、時には悩みながらも楽しい毎日を送られていますか？

就職して最初の1～2年は、技術や人間関係、コミュニケーションなどで悩むことが多く“看護が向いていないのではないかな”“うまくできない自分はだめなのではないかな”などと落ち込むこともあるかと思います。でも、悩み、落ち込み、じっくりと考え、友人や上司、先輩、恩師などに話を聞いてもらいながら努力を積み重ねることが、大切なかけがえのない体験になります。そのような体験の積み重ねが、自分なりの看護を見出し、働く喜びに繋がっていきます。つらいからこそ、乗り越えたときの達成感は大きく、成長した自分を実感し、自分自身を褒めることができるのではないのでしょうか。一人で悩まず相談できる人を見つけて頑張ってください。

また、就職して4～5年目になる皆様は、仕事や環境にも慣れ、信頼される立場になり、いきいきと活躍されていることと思います。でも、そろそろ変化や次のステップ（キャリアアップ）を考え、悩み始める頃ではないのでしょうか。そのときには友人や上司に相談することとあわせて、ぜひ4年間学んだ本学のことを思い出し、相談し、大いに活用し、チャレンジして下さい。

同窓会の輪を 広げていきましょう！

大西 信行 講師



卒業生のみなさん、お変わりありませんか。早いもので四日市看護医療大学の開学から今年で9年目を迎えました。この間、みなさんの「看護を学びたい」という熱い思いは、後輩へと確実に受け継がれています。

医療を取り巻く環境の変化はとてはやく、私たちはこれらの変化に柔軟に対応できるよう、将来を見通して自らの意識や行動を変えていかなければなりません。それは医療制度、医療技術、多職種との連携・協働など様々なことが予測されます。そのような変動の中、みなさんは就職した病院、病棟、勤続年数など、各個人で様々な経験をされています。また、仕事に対しての大変さや楽しさも経験されています。みなさんのこの貴重な経験や知識をぜひ同窓生で共有してほしいと願っております。この同窓会を通じて、勉強会や研究会を開催することができれば、母校の同期生はもちろん、先輩や後輩に出会うことができます。また気さくに話すこともできますので、活発な意見交換が知識を深めることになり、そこからさらにつながりを広げることができます。このような機会を設ける際にはぜひ教員も加えていただき、みなさんとの関係を大切に、同窓会の輪を広げるお手伝いをさせていただきたいと思います。

卒業生のみなさん、くれぐれもお体は大切にますますの御活躍を期待しております。

皆さんと 学べたことに 感謝しています。

加藤 睦美 講師



お元気ですか。最近、皆さんの活躍を見聞きします。実習先でも、学生達に優しく時には厳しく実習指導をしてくれたり、病室で呆然としている学生にそっと声をかけてくれたりする姿をみるとうれしくなります。本年度の基礎看護学実習で、学生が「あの看護師さんみたいになりたい。モデルができた」と言っていました。「あの看護師さんは、先輩だよ」と学生に伝えました。「先輩だよ」という言葉に、「四日市看護医療大学の同窓生のがんばりと誇りを称えるとともにこの後に続いてね」という願いを込めました。そんな同窓生の皆さんとともに学べたことを幸せに思い感謝もしています。それぞれが、自分の歩む方向性を明確にして、自信をもって活動しているからでしょうね。

私は、看護職生活の中で、1年目・3年目・5年目・・・と節目に、さらには看護につまずいた時、看護学生1年生のときに授業で問われた「看護技術とは？」ということを考えさせられます。今では、看護職を続けていくうえで、一生「学び・考え」続けなさいと課題をいただいたと思っています。皆さんにとって、四日市看護医療大学の4年間はどのような看護の礎になったのでしょうか。四日市看護医療大学で歩んだ道の続きを、同窓生の皆さんひとりひとりの力で、自分らしく活躍して、前に前に道を開拓し続けて歴史をつくってください。同窓生が集まると「四日市看護医療大学の大きな太い道」ができることを願っています。楽しみます。そして、ときには、小休止に母校という原点？古巣？のことも思い出してください。何か助けになると思います。古巣で皆さんの姿を眺めています。

大学の現況

卒業生のサポート事業を開始いたしました！！

教授 豊島 泰子

卒業生の皆さんお元気ですか？7月18日（土）、記念すべき第1回目の同窓会が開催され、四日市看護医療大学を卒業され、皆さんが看護の専門職として、医療の最前線で活躍され、きらきら輝いている姿を拝見し大変うれしかったです。

すでにご存じのように本学では、看護について調査・研究を行う目的で、平成26（2014）年度に看護研究交流センターができました。そこで行うプロジェクト事業として、本学の卒業生の皆さんを支える「卒業生を支えるサポート事業」を立ち上げ、8月27日（木）第1回目の事業を開始いたしました。時々卒業生の皆さんが本学を訪ね、病院での仕事内容などを話していただき、皆さんが看護の専門職として、人として成長されている様子に教員として非常にうれしく思っています。今後毎年1回～2回はこのような会を開催していく予定です。看護は専門職であるがゆえに厳しさが伴います。日々の仕事に行き詰まった時、来校され教員に話してみませんか？いつでも待っていますよ！！。

本学の教職員一同が卒業された皆さんのよきサポート者であることを忘れないでください。

新しい未来に向けて大学院にチャレンジしてみませんか！

教授 福原 隆子

卒業生の皆様、お元気ですか。それぞれのフィールドで日々ご活躍されていることと存じます。皆様の活躍や頑張りは本学にも度々届いており、それらを聞くたびに大変嬉しく思っております。

さて、現在、医療の発展に伴い、人々のニーズが多様化する中で、看護職に対する期待も高まっています。平成24年に開設されました本学大学院修士課程におきましても、「修士論文コース」と「専門看護師（CNS）コース」を設け、人々の複雑な健康問題の解決に積極的に取り組み、社会の要請に応えることができる高度な専門知識・技術を身につけた人材の育成に努めております。本学大学院では、社会人として仕事を継続しながら学びたいという有職者の学習意欲に応えるため、仕事との両立に配慮し、夜間・土曜の講義を設けると共に、通常2年課程に加え3年間の長期履修制度を導入し、職を辞さずに学習や研究ができる環境を整備しています。更に、本学卒業生の場合は、授業料が減免されます。

大学院での経験は、医療・看護の知識や研究能力を高めるだけでなく、人として自分自身を深める絶好の機会でもあります。看護学をさらに追究したい、自分のキャリアを活かしつつ看護の高度専門知識を習得し看護実践をさらに深めていきたいと考えておられる卒業生の方々、それぞれの夢の実現に向けて、本学大学院への進学にチャレンジしてみませんか。

新任教員

【平成27年1月】

古川智恵講師（成人）

【平成27年4月】

工藤安史講師（公衆衛生学）、藤田佳子講師（基礎）、梶恵助教（成人）、吉川尚美助教（成人）、森京子助教（成人）、野内香純助教（母性）、春名誠美助教（在宅）、荻野妃那助教（在宅）、野田朋美助手、古田知香助手

退任教員

【平成27年1月】

水野ルイス里美助教（成人）

【平成27年3月】

河野啓子特任教授、鈴木敦子特任教授、野口多恵子特任教授、水野正延教授（精神）、大平肇子准教授（母性）、小松美砂准教授（老年）、大久保仁司講師（成人）

第9回

よんよん祭

10月24日(土) 25日(日)



よんよん祭
2015
四日市看護医療大学・四日市大学 合同大学祭
10月24日(土)・25日(日)
「Smile Challenge」
2015年10月24・25日、四日市看護医療大学・四日市大学合同大学祭を開催します。
今年度の大学祭は「Smile Challenge」(スマイルチャレンジ)がテーマです。10月24日(土)・25日(日)の2日間、両校の学生が一体となって盛り上げます。
【大学祭会場】
10月24・25日両校合同会場、四日市看護医療大学・四日市大学合同大学祭会場
10月24日(土)10時～17時、10月25日(日)10時～17時
【大学祭内容】
10月24日(土)10時～17時、10月25日(日)10時～17時
10月24日(土)10時～17時、10月25日(日)10時～17時
10月24日(土)10時～17時、10月25日(日)10時～17時



お笑いライブ!! 10/24 16:00～開演
観覧無料 3号館にて
クマムシ ゴー☆ジャス はなしよー

今年度で9回目を迎える本学大学祭は「よんよん祭」として、四日市大学と合同で10月24日（土）10月25日（日）に開催いたします。今年度のテーマは「Smile Challenge」です。皆さまに笑顔になっていただけるように様々な企画にチャレンジします。その中のイベントのひとつとして今年は看護ボランティアを看護大学実習室にて行います。学生時代を過ごした学び舎をご覧いただくこともできますので卒業生の皆さまには懐かしんでいただけるかと思えます。また例年ご好評をいただいている小さなお子様たちを対象とした縁日スタイルの「ちびよん」もありますので是非ともご家族をお誘い合わせの上ご来場ください。大学実行委員一同、卒業生の皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



同窓生メッセージ

生川亜希（平成22年度卒業）

大学卒業後は、静岡県にある聖隷浜松病院で働いています。看護職として5年目を迎えることができました。3年目までは整形病棟で働き、現在は脳神経外科・泌尿器科の混合病棟で働いています。1年目の頃は地元を離れ、初めての一人暮らし、看護師としての仕事に幾度となく落ち込むこともありましたが、しかし大学時代の仲間、先生達と学んだ日々を話したり、職場の同僚と話すことで乗り越えることができました。経験年数があがるにつれ、看護研究、研修、勉強会と日々追われる中で、任せてもらえる仕事もでき、今学びたい分野を見つけ、日々充実した楽しい時間を過ごしています。みなさんも大変な事もあるかと思いますが、みんなで支え合い、一歩ずつ前に進んでいきましょう。

加藤明美（平成23年度卒業）

私は、四日市健診クリニックで保健師として働いています。業務内容は、精密検査該当者への受診勧奨や有所見者への面談、健診結果の説明、特定保健指導、健診結果の集団分析、健康教室の開催、労働安全衛生法改正にともなうストレスチェック制度への対応などさまざま、日々たくさんのことを学んでいます。クリニック内での活動のほか、担当する事業所へ訪問し面談を実施することもあり、安全衛生担当者や産業医とともに職場巡視を行う機会もあります。保健師となり三年が過ぎた今、前回面談を受けていただいた方々の、「減量に成功し、今も運動を続けています。」「健診結果が良くなった。」「禁煙できた。」「話を聞いてもらって良かった。」などのお言葉が、大変励みとなっています。これからも、人の心に寄り添える保健師になれるように、日々学び続けていきたいと思っています。

中村愛佳（平成25年度卒業）

私は現在、市立四日市病院のICUで勤務しています。ICUでは重症な患者様や手術後の患者様を対象に、24時間体制で看護を提供しています。そのため、最初は一般病棟との違いに戸惑いがありましたが、1年半が経ち、今では少し気持ちに余裕が出来た事で、1年目の時よりも、患者様の気持ちに寄り添った看護が少しずつできるようになってきたと感じています。4期生ということで、院内にたくさんの同じ大学の先輩や同期、後輩が勤務しているため、とても心強いです。

加藤愛美（平成25年度卒業）

市立四日市病院で看護師として働き始めて、1年半が経ちます。最初の1年間は、業務と技術を覚えること、秋頃から導入された変則3交代勤務とPNSにより日々を過ごすことで精一杯でした。2年目に入り、任される仕事は増えましたが忙しい日々の中にも、ようやく少し余裕ができてきました。わたしが勤める呼吸器病棟では、癌であると宣告を受けてから最期まで関わる人が多いです。宣告を受けたことによって抱える不安はとても大きく、そういった患者さんや家族と関わる機会が多いです。関わるのことの難しさとともに、関わることによって信頼関係を築いていくことにやりがいも感じています。これからも、患者さんや家族の不安に寄り添い、信頼される看護師となれるように頑張っていきたいです。

森 勇輔（平成25年度卒業）

みなさんこんにちは！名古屋掖済会病院5A病棟看護師森勇輔です。5A病棟は脳神経外科と泌尿器科の混合病棟です。急性期病院でありながら、相反する緩和病棟も兼ね備える病院であり、救急に来院される急性期の患者さんからターミナルの患者さんまで幅広い患者さんを看ることが可能です。病棟には薬剤師在中しており、服薬指導や薬に関する相談も出来、早朝採血も中央検査が行い、すごく働きやすい環境です。現在看護師2年目であり、日々学びながら頑張っています。まだまだ解らない事が沢山ありますし、できないことも沢山あります。皆さんもそんなことあると思いますが、お互い看護師として日々頑張っていきたいと思います。

決算報告書（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

収入の部				支出の部			
	費用	決算	備考		費用	決算	備考
前年度繰越金		11,210,009		会費		56,824	暁学園同窓会費
会費	3,420,000		同窓会費(114名分)	同窓会会報		154,908	印刷、郵送代等
雑収入	1,757		利息	母校協力費		314,204	屋外ベンチ、湯沸かし器
合計		14,631,766		卒業記念品		140,280	携帯マグ、花
				消耗品		734	同窓会印
				小計		666,950	
				次年度繰越金		13,964,816	
				合計		14,631,766	

同窓会役員

会長	近藤あおい（平成22年度卒業）	安達 菜月（平成25年度卒業）
副会長	葛谷 直樹（平成23年度卒業）	加藤 愛美（平成25年度卒業）
会計	小嶋 まり（平成22年度卒業）	中村 愛佳（平成25年度卒業）
書記	北森 史佳（平成24年度卒業）	達 晴香（平成26年度卒業）
監査	中村明日香（平成23年度卒業）	田路 康恵（平成26年度卒業）
	新田 悠介（平成25年度卒業）	